

The INNOVATION of Laminate Veneers

第一人者がついに放つ渾身の1冊。

目次 Contents

Opening Graph (Case Presentation)

Clinical Application of the Plane System Plane System の臨床応用症例

Chapter 1 Prologue : 接着+MIを用いたコンベンショナルラミネートベニアの安定性とそのBiomimetic Principle

- ❖ 1. はじめに: 「接着+MI」の組み合わせによる新たなビジョン
- ❖ 2. 求めるのは、Integrity of Restoration か? Integrity of Tooth Substance か?
- ❖ 3. MI、そしてBiomimeticを実践するための土壌はすべて揃った
- ❖ 本項のまとめ

Chapter 2 Conventional Laminate Veneer Restorations: Medium to Long Term Follow Up Cases
中長期的予後をもつラミネートベニアの症例紹介

- ❖ 1. はじめに
1) 登場から約40年を迎えたラミネートベニア
- ❖ 2. The History of Laminate Veneer Restoration
- ❖ 3. Case Presentations
(掲載症例) Case 1: 広範囲な中切歯冠破折症例 / Case 2: 前歯部歯間空隙をポーセレンラミネートベニアで修復した症例 / Case 3: 広範囲な前歯部歯冠破折症例① / Case 4: 広範囲な前歯部歯冠破折症例② / Case 5: テトラサイクリン変色歯への対応 / Case 6: 重度の歯周病と咬合崩壊の患者にフルマウスリコンストラクションとラミネートベニア修復を併せて行った症例 / Case 7: 矯正歯科治療とアディショナルラミネートベニアを用いたガミースマイルへの対応 / Case 8: 破折歯サンドウィッチベニア症例 / Case 9: 顎位の変更を行った顎関節症患者に白歯ノンブレップレラミネートベニアおよび前歯口蓋側ラミネートベニアを用

いたフルマウスリコンストラクション症例 / Case 10: 歯肉退縮により大きく歯肉辺縁の不調和を起こした患者に対してマイクロサージェリーによる根面被覆とラミネートベニアを併用し治療した症例 / Case 11: 審美的改善を希望する患者にモックアップを行いラミネートベニアにて修復した症例 (ブリーチシェード症例)

Chapter 3 Case Presentation : コンベンショナル・ラミネートベニアの集大成
中等度の酸蝕症に対する低侵襲かつ全顎的な接着修復症例

- ❖ 1. はじめに
- ❖ 2. 酸蝕症 (Erosion) と咬耗 (Attrition) が与える影響
- ❖ 3. 上顎前歯部における酸蝕症の分類と治療法: ACE 分類
- ❖ 4. 修復治療の目的と計画立案
- ❖ 5. Minimally Invasive Full-mouth Adhesive Rehabilitation
- ❖ 6. 本項で供覧する症例の概要と治療の流れ
- ❖ 本項のまとめ

Chapter 4 Laminate veneers: The Movement to Digitalization
ラミネートベニア デジタル化への動き

- ❖ 1. はじめに
- ❖ 2. Materials in Digital Ceramic Restorations
- ❖ 3. The Accuracy of Digital Equipments (デジタル新時代で変化したラミネートベニア治療プロトコールとスキル)
- ❖ 本項のまとめ

Chapter 5 The Classifications of Anterior Laminate Veneer Tooth Preparation and Clinical Cases of Digitalized Veneers
前歯部ラミネートベニア形成デザインの分類とクラシフィケーションにあわせたデジタルラミネートベニア症例紹介

- ❖ 1. はじめに: 前歯部ラミネートベ

ニア形成デザインを分類するための基礎知識

- ❖ 2. フェザーエッジ形成 (パーティカルプレパレーション) とデジタル技術の親和性
- ❖ 3. フェザーエッジ形成 (パーティカルプレパレーション) をはじめとする支台歯形成用パーキットおよびエアスケーラー用チップの開発
- ❖ 4. 前歯部ラミネートベニア形成の分類およびデジタルラミネートベニア症例紹介 (Digital Laminate Veneer Case Presentation)
- ❖ 本項のまとめ

Chapter 6 The Classifications of Posterior Laminate Veneer Tooth Preparation
臼歯部ラミネートベニア形成デザインの分類

- ❖ 1. はじめに: 白歯オクルーザルラミネートベニアの形成を分類するための基礎知識
- ❖ 2. 白歯オクルーザルベニアの形成の分類
- ❖ 本項のまとめ

Chapter 7 Case Presentation : The Grand Finale : Minimally Invasive Full-Mouth Rehabilitation Adapting Digital Dentistry
最終章: デジタルデンティストリーに適應した低侵襲フルマウスリハビリテーション症例

- ❖ 1. はじめに
- ❖ 2. 本章の概要
- ❖ 3. 間接法MI修復治療における臨床的到達点
- ❖ 4. 将来的に予想される低侵襲フルマウスリハビリテーションの治療プロトコールにおけるクリニカルディスカッション
- ❖ 5. 酸蝕症に対する修復治療について
- ❖ 6. Case Presentation
- ❖ 7. 結論
- ❖ 本項のまとめ

イノベーション・オブ・ラミネートベニア

20年の臨床と研究が示す価値

— 2 Decades of Clinical and Research Excellence —

唯一無二、ラミネートベニアの集大成。

“世界的潮流として、歯科界の方向は最小必要限度の治療により最高の治療成果を挙げるMIのコンセプトが主流となっており、審美歯科治療はまさにその先駆けとなっているが、この書籍はその指導書とも言えるであろう……Dr. 山崎長郎 (東京都開業、日本臨床歯科学会理事長)

長期にわたり、ひたすらMIにこだわったラミネートベニアを突き詰めていく姿はまさしく敬服に値する。この書籍が読者のMIと接着にこだわる審美治療のバイブルになるであろうと確信している……Dr. 土屋賢司 (東京都開業、日本臨床歯科学会専務理事)

今後、臨床歯科医にとってのラミネートベニアのバイブルは、Dr. Okawa Mの本著「The Innovation of Laminate Veneers」に変化すると思っている……Dr. 鈴木真名 (東京都開業、日本臨床歯科学会理事)



MI修復治療のための必須テクニックとなったラミネートベニア。本書は、その第一人者であるDr. 大河雅之 (東京都開業、日本臨床歯科学会理事長幹事 / 東京支部長) が20年以上にわたる臨床と研究についてまとめた渾身の1冊。ラミネートベニアの歴史から多数の中長期予後症例、デジタルラミネートベニアに関する研究および症例、専用パーキットの紹介や前歯・白歯ラミネートベニアの支台歯形成クラシフィケーションなど、圧巻の内容とボリューム。現在、そして将来の審美修復のクオリティーを考える歯科人必携の1冊。

1987年、東北歯科大学卒業。2001年、代官山アドレス歯科クリニック (東京都) 開院。2019年、日本歯科大学生命歯学部補綴II講座非常勤講師。2000年代前半より、臨床のかたわら執筆活動を開始。「QDT」(Quintessence Publishing [USA]) にも複数回の掲載歴をもつ。また、国内はもとより米国、ドイツ、イタリア、イスラエルなどでの海外講演も多数。また、デジタル・マイクロラミネートベニアのハンズオンコースも精力的に開催。日本臨床歯科学会理事長幹事 / 東京支部長 / フェロー、EAED 会員、奥羽大学歯学部同窓会本部 前学術部長、AMED 前理事、日本歯科審美学会 認定医、日本顎咬合学会 認定医、Ivoclar Vivadent 社 オピニオンリーダー、Carl Zeiss 社 ワールドスピーカー。



大河雅之: 著
MASAYUKI OKAWA

注文書 **イノベーション・オブ・ラミネートベニア 20年の臨床と研究が示す価値**

モリタ商品コード:208050972

冊注文します。

●お名前	●貴院名	●ご指定歯科商店
●ご住所 (〒)		
●TEL	●FAX	支店・営業所

※ご記入いただいた個人情報は、弊社の新刊案内、講演会等の案内に利用させていただきます。
※ご指定歯科商店がない場合は送料をいただき、代金引換宅配便でお送り致します。

2024-9

QUINTESSENCE PUBLISHING 日本

●サイズ:A4判 ●464ページ ●定価44,000円 (本体40,000円+税10%)

クインテッセンス出版株式会社

〒113-0033 東京都文京区本郷3丁目2番6号 クイントハウスビル

TEL. 03-5842-2272 (営業) FAX. 03-5800-7592 https://www.quint-j.co.jp e-mail mb@quint-j.co.jp

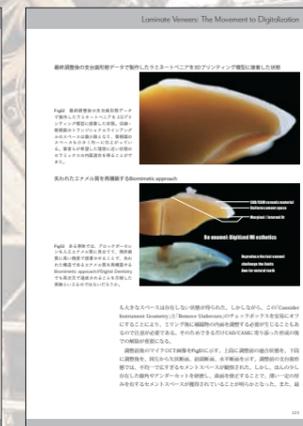


全 8 Chapter ・ 464 ページで見せる

ラミネートベニアの真価と可能性。

Opening Graph (Case Presentation)

本書の導入として、「Clinical Application of the Plane System Plane System の臨床応用症例」と題した症例を提示。「Plane System」(ZirkonZahn、トーチンデンタル)をはじめとする ZirkonZahn 社の装置や口腔内スキャナーを駆使し、フルデジタルの検査・診断そしてラミネートベニアの製作までをデジタル化した症例を通じ、ラミネートベニア修復の近未来を感じさせる。

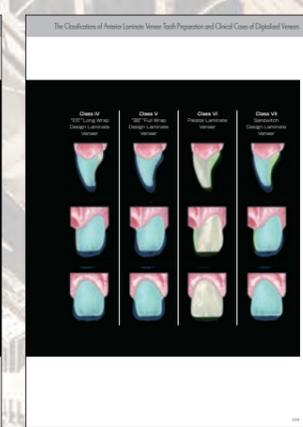
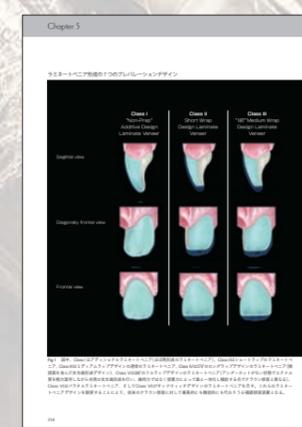
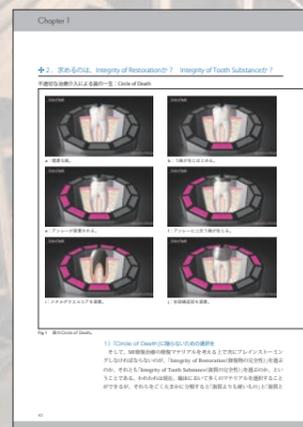


Chapter 4 Laminate Veneers: The Movement to Digitalization ラミネートベニア デジタル化への動き

近年のデジタルデンティストリーの進化を受け、ラミネートベニアに使用できるマテリアルの解説はもちろん、筆者が考案したアナログ内面適合補正法「AISCM」、および口腔内スキャナー使用時の隣接面の近接限界について行った研究結果などについて詳説。近年著しく進むデジタルデンティストリーがラミネートベニアにも十分対応可能であることを示した。

Chapter 1 Prologue: 接着 + MI を用いたコンベンショナルラミネートベニアの安定性とその Biomimetic Principle

この Chapter では、著者が一貫して主張する「最大限に歯を保存する治療」の重要性について詳説。多くの歯科医師が、歯質を削除することの問題点を知らながら保険診療に代表される侵襲の大きな治療を行う現状について警鐘を鳴らした上で、接着歯学の進化とラミネートベニアがもたらす恩恵について存分に述べる。

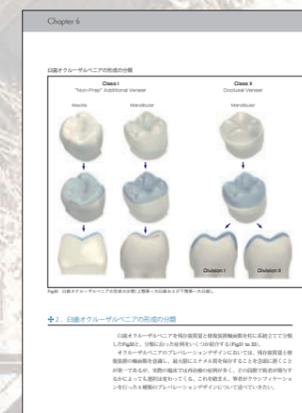


Chapter 5 The Classifications of Anterior Laminate Veneer Tooth Preparation and Clinical Cases of Digitalized Veneers 前歯部ラミネートベニア形成デザインの分類とクラシフィケーションにあわせたデジタルラミネートベニア症例紹介

これまでの臨床経験および多数の文献検索を基に編み出した、前歯部ラミネートベニア形成デザインの7分類を紹介。これに加え、同分類に対応する症例も併せて紹介。また、著者がラミネートベニアの形成に適するフェザージェッジ形成についても解説し、著者開発によるダイヤモンドバーキットおよびエアスケーラー用チップについても紹介されている。

Chapter 2 Conventional Laminate Veneer Restorations: Medium to Long Term Follow Up Cases 中長期的予後をもつラミネートベニアの症例紹介

デジタル以前のゴールドスタンダードであった、耐火模型法によるポーセレンラミネートベニアを著者が臨床に応用しはじめた 2000 年代前半からの症例、そしてプレスセラミックを症例に応じて導入しはじめた 2000 年代中～後半からの症例を全 11 症例、104 ページにわたって紹介。それぞれの症例が見せる安定した予後が語る、ラミネートベニアの予知性。

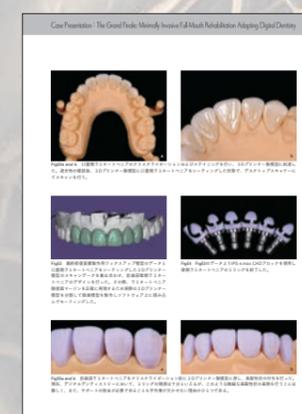


Chapter 6 The Classifications of Posterior Laminate Veneer Tooth Preparation 臼歯部ラミネートベニア形成デザインの分類

Chapter5 で示された前歯部のラミネートベニア形成デザインの分類に続き、本 Chapter では臼歯部のオクルーザルベニア形成デザインの6分類について紹介。Chapter5 と併せ、低侵襲フルマウスリコンストラクションのための支台歯形態について網羅した。また、日本人の歯にあわせた支台歯形成量についても、文献検索や著者の研究を基に詳しく示している。

Chapter 3 Case Presentation: コンベンショナル・ラミネートベニアの集大成 中等度の酸蝕症に対する低侵襲かつ全顎的な接着修復症例

筆者がデジタル導入以前に手掛けた症例の中でも代表的な「中等度の酸蝕症に対する低侵襲かつ全顎的な接着修復症例」について提示。思慮深い検査・診断のもと、上顎前歯部サンドウィッチベニア、下顎臼歯部オーバーレイおよびインレーを駆使することで成し遂げた低侵襲フルマウスリコンストラクションの実際を余すことなく提示。



Chapter 7 Case Presentation: The Grand Finale: Minimally Invasive Full-Mouth Rehabilitation Adapting Digital Dentistry 最終章: デジタルデンティストリーに適應した低侵襲フルマウスリハビリテーション症例

本書の締めくくりとなる本 Chapter では、こちらも著者の代表的な症例のひとつである低侵襲フルマウスリハビリテーション症例について紹介。同一症例に対し、2名の歯科技工士がデジタルアプローチとアナログアプローチでラミネートベニアを製作し、患者が好みのものを選択。甲乙つけ難い仕上がりの中、患者に選ばれたのは……。